ペット一般教養Ⅰ

ドッグトレーナー科	1年次	後期	15時間 1単位	必修 講義	共通科目 教養的科目

■授業の概要

就職セミナー(業界就活事情、社会人の心構え、履歴書かき方、自己分析方法)

■到達目標

社会人の心構え、履歴書の書き方などの理解をする

■成績評価の方法等

出席点、提出物

■授業計画

◆実務経験者による授業の有無：有

ペット関連業の実務経験者であり、経営者としての視点からペット業界の就活事情や履歴書の書き方等を指導します。

※予定は変更されることがあります。

回数	授　業　内　容
1～2	履歴書の書き方 前提、履歴書選び方、注意点、自己ＰＲ・志望動機・特技・趣味以外の記入方法
3～4	ペット業界の現状 就活ステップ、就活スケジュール
5～6	自己分析 自己年表、長所・短所シート作成
7～8	自己ＰＲ ポイント、書き方
9～10	履歴書作成
11～12	志望動機 ステップ、書き方ポイント
13～14	履歴書作成
15	履歴書作成・完成 履歴書完成した学生は志望動機

特別活動Ⅰ

ドッグトレーナー科	1年次	通年	60時間 2単位	必修 講義	共通科目 教養的科目

■授業の概要

スクールフェスティバルや校外学習等を通じて、協調性や課題発見力等を養う

■到達目標

協調性、課題発見力を身につける

■成績評価の方法等

出席点、提出物、レポート

■授業計画

◆実務経験者による授業の有無：無

※予定は変更されることがあります。

回数	授　業　内　容
1～5	レクリエーションまたは健康診断
6～8	専科説明会
9～13	衛生管理
14～43	スクールフェスティバル 出店の準備から本番まで行う
44～50	校外学習（特定飼養動物）
51	進級説明会
52～53	衛生管理
54～55	衛生管理
56～60	ＩＰＣグループ　ゼミ発表会

共通基礎

ドッグトレーナー科	1年次	前期	60時間	必修	共通科目
			2単位	実習	専門基礎科目

■授業の概要

犬との接し方や道具の使い方等、犬を扱う上で必要となる基本的な知識・技術を学ぶ

■到達目標

犬を扱う上での基本的な知識。技術を身につける

■成績評価の方法等

出席点、定期試験

■授業計画

◆実務経験者による授業の有無：有

プロトリマー、ドッグトレーナー、愛玩動物看護師、ドッグブリーダー、それぞれの経験を持たれる講師陣が担当します。

※予定は変更されることがあります。

回数	授　業　内　容
1～2	犬とは
3～5	社会人マナー、施設利用方法・案内、レクリエーション
6	人と犬の歴史　犬の起源、進化
7	犬の形態機能学的特徴
8	飼育する責任（動愛法とは、意識する項目）
9～10	レクリエーション
11	手入れと健康
12	飼育記録の必要性、記入方法、健康管理①
13～15	犬の触り方、行動管理
16	健康管理②
17	日常ケア①
18～20	飼育実習①(健康チェック、ケア、サークル出入)
21	健康管理③
22	日常ケア②
23～25	飼育実習②(健康チェック、ケア、散歩)
26	衛生管理

27	教材配布
28	食事管理
29～30	飼育実習③(健康チェック・ケア、散歩、クレート衛生管理)
31	週末実習について（インターンシップ、飼育管理実習説明）
32	ベイシングとは、ベイシング方法・注意点
33～35	飼育実習④(健康チェック・ケア、散歩、クレート衛生管理)
36	ブラッシングとは
37	交通安全
38～40	飼育実習⑤(健康チェック・ケア、散歩、クレート衛生管理、シャンプー)
41	季節ごとの管理　動物に影響を与える条件、各季節の注意点
42	施設利用方法注意
43～45	飼育実習⑥(健康チェック・ケア、散歩、クレート衛生管理、シャンプー)
46	爪切り、イヤーケア　道具の使用方法・注意点
47	犬の本能行動の問題 本能と習性、社会構造、コミュニケーション、社会的距離、問題行動、問題行動の原因
48	教材配布
49～50	飼育実習⑦（各自今までの内容を復習しながら実施）
51～53	飼育実習⑧（各自今までの内容を復習しながら実施）
54	総復習
55	自己啓発
56～57	飼育実習⑨（各自今までの内容を復習しながら実施）
58	総復習
59	定期試験
60	今後について

各科実習

ドッグトレーナー科	1年次	前期	60時間	必修	共通科目
			2単位	実習	専門基礎科目

■授業の概要

所属する科に関わらず、美容、訓練、看護、繁殖の基礎を学ぶ

■到達目標

美容・訓練・看護・繁殖の基礎的知識・技術を身につける

■成績評価の方法等

出席点、定期試験

■授業計画（回数は、月間時間割に準ずる）

◆実務経験者による授業の有無：有

美容実習はプロトリマー、訓練実習はドッグトレーナー、看護実習は愛玩動物看護師、繁殖実習はドッグブリーダーの実務経験者が担当し、それぞれの分野を専門的に指導します。

※予定は変更されることがあります。

回数	授　業　内　容
1～2	グルーミング ・ブラッシング、ネイルカット、イヤーケア
3～4	ベイシング ・肛門腺位置確認、肛門腺絞り　・シャンプー手順　・ドライヤー使用方法
5～6	クリッピング ・趾裏、お腹、肛門クリップ
7～8	鋏の開閉 ・趾周りカット　・趾裏カット、肛門周りカット
9～10	部分カット 桃尻、アンダー、エプロン、前肢飾り毛、耳飾り毛、尾カット
11～12	リボン付け
13～14	アタッチメントコームを使用したトリミング方法 スピードトリミング（鋏仕上げなし）
15～16	犬をしつける目的と訓練の進め方 ・しつけと訓練の違い　・褒める時・叱る時のポイント　・リーダーシップをとるために
17～18	基本服従5項目（命令の出し方） ・指示の出し方　・従わなかった時の対応の仕方　・リード操作の仕方、注意点
19～20	しつけの時期・時間、遊びの重要性 ・パピートレーニング　・犬との遊び、その重要性　・犬が喜ぶ訓練を心がけるために
21～22	モチベーター・報酬の種類、与える際の注意点 ・メリット・デメリット

23～24	基本服従５項目の教え方手順 ・ポイント、注意点
25～26	パフォーマンス ・教え方手順　・メリット
27～28	基本服従５項目を利用した遊び
29～30	保定とは ・立位、座位、横臥位の手順、注意点　・口輪装着方法　・体重測定
31～32	薬剤の投与Ⅰ（錠剤、液剤、点眼、点耳） 手順、注意点
33～34	バイタルサインの測定（体温、脈拍、呼吸） 手順、注意点
35～36	耳道洗浄・歯石除去・眼洗浄 手順、注意点
37～38	薬剤の投与Ⅱ（粉剤、軟膏） 包帯法の手順、注意点
39～40	緊急対応 手順、注意点
41～42	復習 ・保定、バイタルチェック、投薬など実技習得状態の確認
43～44	犬の測定方法（スタンダードと個体の違い） ・体長、体高、胸囲、胴囲、正姿勢について
45～46	繁殖学基礎① ・基礎　・発情生理　・交配の流れと精液組成　・発情犬と雄犬の反応
47～48	繁殖学基礎② ・妊娠とは　・偽妊娠とは　・妊娠診断　・胎児の成長
49～50	繁殖学基礎③ ・分娩の管理　・子犬の成長と管理　・母犬の管理
51～52	給餌の重要性 ・餌量計算基礎　・実例での計算練習
53～54	餌量計算（実践） ・担当犬の給餌量決定　・犬種、季節における変化等　・餌種変更方法
55～56	社会化について ・子犬の触り方
57～60	定期試験

動物形態機能学Ⅰ

ドッグトレーナー科	1年次	前期	30時間	必修	共通科目
			2単位	講義	専門基礎科目

■授業の概要

犬猫を中心に動物の身体の構造、機能を理解し、なりやすい疾患について学ぶ

■到達目標

犬猫の形態と機能、なりやすい疾患について理解する

■成績評価の方法等

出席点、資格試験

■授業計画

◆実務経験者による授業の有無：有

愛玩動物看護師国家資格を有する実務経験者が講師として担当します。

※予定は変更されることがあります。

回数	授　業　内　容
1	・形態機能学とは ・疾患学とは
2	骨格系① ・役割、形状、骨格名称、骨格分類、椎骨式
3	骨格系② ・代表的疾患【骨折、脱臼】
4	骨格系③ ・代表的疾患【股関節形成不全、軟骨形成不全、関節炎】
5	筋肉系① ・役割、構造、筋肉・腱・靭帯違い　・代表的疾患【前十字靭帯断裂、多発性筋炎】
6	神経系① ・役割、構造　・代表的疾患【椎間板ヘルニア(ヘルニアの種類)、水頭症、泉門、癲癇】
7	内分泌系① ・役割、構造
8	内分泌系② ・代表的疾患【クッシング症候群、アジソン病、甲状腺機能亢進症、甲状腺機能低下症】
9	感覚器系①【聴覚】 ・役割、構造　・代表的疾患【外耳炎、耳血腫】
10	感覚器系②【視覚】 ・役割、構造　・代表的な疾患【白内障、緑内障、角膜炎、瞬膜腺突出】
11	感覚器系③【味覚】 ・役割、構造　・代表的な疾患【歯石、歯周病、口内炎】
12	感覚器系④【皮膚感覚】 ・役割、構造　・代表的疾患【膿皮症、脂漏症】

13	感覚器系⑤【嗅覚】 ・役割、構造　・代表的疾患【鼻炎、副鼻腔炎、鼻出血】
14	基礎、骨格系、筋肉系、神経系、内分泌系、感覚器系の復習
15	消化器系① ・役割、構造
16	消化器系② ・代表的疾患【下痢、便秘、肛門嚢炎、腸閉塞、巨大食道】
17	肝胆道系① ・役割、構造　・代表的疾患【黄疸、肝炎、肝リピドーシス】
18	膵臓① ・役割、構造　・代表的疾患【インスリノーマ、膵炎、糖尿病】
19	泌尿器系① ・役割、構造　・代表的疾患【膀胱炎、ネフローゼ症候群、尿路結石症】
20	腎臓① ・役割、構造　・代表的疾患【腎不全、腎盂腎炎】
21	生殖器系①（雄） ・役割、構造　・代表的疾患【前立腺肥大、包皮炎、精巣停留】
22	生殖器系②（雌） ・役割、構造　・代表的疾患【膣炎、子宮蓄膿症、乳腺腫瘍】
23	消化器系、肝胆道系、膵臓、泌尿器系、腎臓、生殖器系の復習
24	呼吸器系① ・役割、構造　・代表的疾患【気管支炎、肺炎、気管虚脱、水胸・気胸】
25	循環器系① ・役割、構造
26	循環器系② ・代表的疾患【心不全、門脈体循環シャント】
27	血液・リンパ系① ・役割、構造　・代表的疾患【高血糖、低血糖、貧血、リンパ腫】
28	腫瘍系疾患① ・腫瘍とは、分類、特徴、ステージ、予防、治療
29	呼吸器系、循環器系、血液・リンパ系、腫瘍系疾患の復習
30	試験対策

動物感染症学Ⅰ

ドッグトレーナー科	1年次	前期	30時間	必修	共通科目
			2単位	講義	専門基礎科目

■授業の概要

病原体になりうる微生物の感染予防方法を理解し、動物に健康維持に努める

■到達目標

ズーノーシス、寄生虫等の生態等を理解し、感染予防方法を身につける

■成績評価の方法等

出席点、資格試験

■授業計画

◆実務経験者による授業の有無：有

愛玩動物看護師国家資格を有する実務経験者が講師として担当します。

※予定は変更されることがあります。

回数	授　業　内　容
1	下痢と嘔吐 ・観察する内容　・種類、原因、対処法
2	応急処置が必要な症例①【日射病・熱射病・低体温症】 ・原因、症状、なりやすい犬種、処置、予防
3	応急処置が必要な症例②【胃拡張・胃捻転】 ・原因、症状、なりやすい犬種、処置、予防
4	応急処置が必要な症例③【外傷、火傷、骨折】 ・各症例の状態、原因、症状、なりやすい犬種、処置、予防
5	応急処置が必要な症例④【痙攣、発作、溺れる、窒息、ショック】 ・各症例の状態、原因、症状、なりやすい犬種、処置、予防
6	応急処置が必要な症例⑤【眼球突出、感電、中毒】 ・各症例の状態、原因、症状、なりやすい犬種、処置、予防
7	寄生虫 ・寄生虫とは、宿主、寄生虫の分類　・腸管内寄生虫の基礎知識　・外部寄生虫の基礎知識
8	腸管内寄生虫①【回虫、鉤虫、鞭虫】 ・形態、宿主、寄生部位、感染経路、症状、人への感染
9	腸管内寄生虫②【瓜実条虫、マンソン裂頭条虫】 ・形態、宿主、寄生部位、感染経路、症状、人への感染
10	腸管内寄生虫③【コクシジウム、腸トリコモナス、ジアルジア】 ・形態、宿主、寄生部位、感染経路、症状、人への感染
11	内部寄生虫【フィラリア】 ・特徴、寄生部位、症状、ライフサイクル　・予防、投薬の注意　・診断、治療、など
12	外部寄生虫①【ノミ、マダニ、アカラス】 ・形態、宿主、寄生部位、感染経路、症状、人への感染

13	外部寄生虫②【ヒゼンダニ、ミミヒゼンダニ、ツメダニ、ハジラミ】 ・形態、宿主、寄生部位、感染経路、症状、人への感染、注意事項、予防方法
14	滅菌と消毒① ・用語説明
15	滅菌と消毒② 【滅菌法】【消毒法】
16	滅菌と消毒③ 【消毒法】
17	滅菌と消毒④ ・各消毒薬の効果的な使用方法
18	不妊措置 ・犬猫の繁殖制限、目的、子供を産ませない方法(各方法利点・欠点)
19	ワクチンプログラム ・ワクチンとは、必要性、接種時・後の注意点、副作用、ワクチンの種類
20	狂犬病ワクチン・混合ワクチン ・それぞれの特徴　・ワクチンプログラム　・混合ワクチンの種類・選択方法
21	犬の混合ワクチンで予防できる感染症
22	猫の混合ワクチンで予防できる感染症
23	幼齢動物の管理
24	高齢動物の管理
25	ズーノーシス① ・ズーノーシスとは　・学ぶ意義　・狂犬病　・猫ひっかき病
26	ズーノーシス② ・破傷風　・トキソプラズマ　・皮膚糸状菌症　・幼虫移行症
27	ズーノーシス③ ・ノミ刺し症　・アニサキス症　・食中毒を引き起こす病原体　・レプトスピラ
28	ズーノーシス④ ・オウム病・マダニが媒介するズーノーシス　・ズーノーシスが増加した要因、予防方法
29	試験対策
30	NAVA ペットケアアドバイザー試験

動物健康管理

ドッグトレーナー科　　1年次　　前期　　15時間　　必修　　共通科目

1単位　　講義　　専門基礎科目

■授業の概要

健常な犬猫に必要な日常ケアと適正飼育法について理解し、飼い主指導に活かす

■到達目標

犬猫の健康管理に必要な日常ケア方法、適正給餌方法を理解する

■成績評価の方法等

出席点、資格試験

■授業計画（回数は、月間時間割に準ずる）

◆実務経験者による授業の有無：有

ペット関連業の実務経験者が講師として担当します。

※予定は変更されることがあります。

回数	授　業　内　容
1	美容の必要性 ・グルーミングとは　・健康管理上の必要性と美容的側面
2	グルーミング用品の基礎知識 ・クリッパー　・趾裏、お腹、肛門クリップ説明
3	鋏説明 趾周りカット　・方法、注意事項
4	部分カット説明 ・桃尻、アンダー、エプロン、前肢飾り毛、耳の飾り毛、尾のカット
5	スピードトリミング ・スピードトリミングとは　・アタッチメントコームの説明
6	リボン付け ・つけ方説明
7	グルーミング時に起こりうる事故 ・事故、処置法、予防
8	ライセンス前復習 ・皮膚の体表管理
9	・給餌学とは ・食餌の目的　・食餌を与える上で考慮すべき点
10	食餌の種類 ・利点、欠点　・フードを選択　・市販フード表示、購入時・後の注意点
11	食餌の回数や量を決めるにあたっての注意点 ・飲み水の必要性　・給餌の際注意する事(犬・猫)
12	犬猫の食性 ・食欲増進方法　・犬猫に与えてはいけないもの①

13	・犬猫に与えてはいけないもの② ・ライフステージ別の管理
14	栄養素①(炭水化物、脂質、タンパク質) ・各栄養素の特徴、過剰・欠乏で起こりうる症状
15	栄養素②(ビタミン、ミネラル、水) ・各栄養素の特徴、過剰・欠乏で起こりうる症状

動物医療関連法規Ⅰ

ドッグトレーナー科	1年次	前期	15時間	必修	共通科目
			1単位	講義	専門基礎科目

■授業の概要

動物愛護及び管理に関する法律等の責務や規制事項を学ぶ

■到達目標

動物に関わる法規について理解する

■成績評価の方法等

出席点、定期試験

■授業計画

◆実務経験者による授業の有無：有

ペット関連業の実務経験者が講師として担当します。

※予定は変更されることがあります。

回数	授　業　内　容
1～2	法律とは
3～4	動物の愛護及び管理に関する法律① ・法のあゆみ　・目的(概要)　・飼主の責任　・動物取扱業の規制
5～6	動物の愛護及び管理に関する法律② ・第一種取扱業と第二種取扱業　・動物取扱責任者、展示方法、販売方法
7～8	動物の愛護及び管理に関する法律③ ・特定動物　・危険動物の飼養規則　・犬及び猫の引き取り措置等
9～10	動物の愛護及び管理に関する法律④ ・負傷動物の通報　・実例と対処法　・災害時の対応
11～12	その他の動物関連法規 ・身体障碍(害)者補助犬法　・狂犬病予防法　・犬等の輸出入検疫規則　他
13～14	社会人として知っておくべき法律 ・個人情報の保護に関する法律　・労働基準法　・労働安全衛生法　他
15	定期試験

動物行動学

ドッグトレーナー科	1年次	前期	30時間	必修	共通科目
			2単位	講義	専門基礎科目

■授業の概要

・基本理念、本能行動の理解、行動発現のしくみ、犬と猫の主な問題行動と対処法を学ぶ

・犬種の特徴や性格を学ぶ

■到達目標

・犬の本能行動、行動心理を理解する

・各グループ、犬種の特徴性格を理解する

■成績評価の方法等

出席点、定期試験

■授業計画

◆実務経験者による授業の有無：有

ドッグトレーナーとして経験されてきた講師が、主に犬猫を中心とした行動の種類、動物間のコミュニケーション法や犬種の特性について指導します。

※予定は変更されることがあります。

回数	授　業　内　容
1	第1章　動物行動学の基本理念 ・学習をする目的　・犬と猫の進化と家畜化
2	第2章　維持行動 ・接食行動、飲水行動、排泄行動、身づくろい行動、休息行動　・護身行動
3～5	第3章　社会行動 ・社会行動とは
6	第3章までの復習 ・確認テストの実施
7	第4章　行動発現の仕組み ・行動の動機づけ　・行動の周期性
8～9	第5章　行動の発達と学習 ・犬の発達段階、猫の発達段階　・学習原理
10	第5章までの復習 ・確認テストの実施
11～12	第6章　問題行動と行動診療 ・問題行動とは　・行動修正法とは　・問題行動療法で用いるその他の方法
13～16	第7章　犬と猫における主な問題行動 ・犬・猫の攻撃行動　・恐怖・不安行動と治療・猫の排泄行動の治療
17	復習時間 ・確認テストの実施

18～19	犬の飼育管理について ・血統書説明　・犬体用語　・各グループ特徴説明
20	第 1 グループ 特徴、原産国、サイズ、沿革説明
21	第 2 グループ 特徴、原産国、サイズ、沿革説明
22	第 3 グループ 特徴、原産国、サイズ、沿革説明
23	第 4 グループ 特徴、原産国、サイズ、沿革説明
24～25	第 5 グループ 特徴、原産国、サイズ、沿革説明 第 6 グループ説明 特徴、原産国、サイズ、沿革説明
26～27	第 7 グループ 特徴、原産国、サイズ、沿革説明 第 8 グループ 特徴、原産国、サイズ、沿革説明
28～29	第 9 グループ 特徴、原産国、サイズ、沿革説明 第 10 グループ 特徴、原産国、サイズ、沿革説明
30	定期試験

伴侶動物Ⅰ

ドッグトレーナー科	1年次	後期	30時間	必修	共通科目
			2単位	講義	専門基礎科目

■授業の概要

エキゾチックアニマルや猫の生理、生態等から適正使用方法及び主な疾病について学ぶ

■到達目標

エキゾチックアニマルの特徴、猫種ごとの特徴等を理解する

■成績評価の方法等

出席点、定期試験

■授業計画（回数は、月間時間割に準ずる）

◆実務経験者による授業の有無：有

ペット関連業の実務経験者が講師として担当します。

※予定は変更されることがあります。

回数	授　業　内　容
1～2	猫の歴史 ・飼育管理　・適正な飼育について
3～4	猫の行動
5～6	血統書について ・顔の形　・体型タイプ　・目の色、形　・毛色と模様
7～10	各猫種説明 特徴、原産地、サイズ、沿革
11～12	ウサギ ・分類、品種、形態、習性、生理　等
13	ハムスター ・分類、品種、形態、習性、生理　等
14	モルモット ・分類、品種、形態、習性、生理　等
15	ピグミーヘッジホッグ、デグー ・分類、品種、形態、習性、生理　等
16	スナネズミ(トビネズミ) マウス(ラット) ・分類、品種、形態、習性、生理　等
17	チンチラ ・分類、品種、形態、習性、生理　等
18～19	シマリス、フクロモモンガ ・分類、品種、形態、習性、生理　等
20	フェレット ・分類、品種、形態、習性、生理　等

21	鳥類基礎知識 ・分類、品種、形態、構造　等
22	フィンチ類 ・分類、品種、形態、習性、生理　等
23	インコ・オウム類 ・分類、品種、形態、習性、生理　等
24	すり餌鳥、ニワトリ、ハト、水禽類、猛禽類 ・分類、品種、形態、習性、生理　等
25～26	爬虫類の基礎知識 ・分類、品種、形態、構造　等
27	カメ、ヘビ ・分類、品種、形態、習性、生理　等
28	トカゲ、カメレオン、イグアナ ・分類、品種、形態、習性、生理　等
29	復習
30	定期試験

専科実習

ドッグトレーナー科	1年次	通年	270時間	必修	専門科目
			9単位	実習	専門科目

■授業の概要

・ドッグトレーナーとして必要な人の基本動作

・(スワレ・フセ・マテ・コイ・ツケなどの) 命令の出し方、教え方（ステップアップ）

・犬に伝わる賞罰の与え方とポイント、補助の与え方を学ぶ

■到達目標

ライセンス取得、訓練の基礎を習得する。

■成績評価の方法等

出席点、資格試験、レポート

■授業計画（回数は、月間時間割に準ずる）

◆実務経験者による授業の有無：有

しつけ教室などでドッグトレーナーとしての実務経験がある講師が担当します。

※予定は変更されることがあります。

回数	授　業　内　容
1	初回ガイダンス
2～20	【基本動作】・人の歩行訓練・リード操作・賞罰の手法などトレーニング基礎を学ぶ 【基礎知識】・訓練業に深く係る動物関連法規などを学ぶ
21～130	【初等服従訓練】・1人1頭の犬を担当し、基本服従6項目のトレーニング実習・各課題で小テストを実施。
131～150	【行動研究】・犬の行動学分野において、研究テーマを決め、1～2か月間の行動研究期間を設け、犬の行動調査の方法を学ぶ。(実験研究内容をまとめ、レポート提出)
151～160	【発表会見学】・進級準備として、同科2年生による発表会の見学。
161～230	【飼育実習】・担当犬について、飼育環境内、飼育時、お客様や担当者以外の人間に対して等、問題の有無・原因・改善レベル等を考え、それらに対する訓練計画をたて実行する。
231～270	【ライセンス対策】 ・ライセンスコース説明・ライセンスに向けての強化訓練・ライセンス模擬試験

インターンシップ

ドッグトレーナー科	1年次	通年	30時間 1単位	必修 実習	専門科目 職業実践科目

■授業の概要

インターンシップでは、お客様に対する接客技術を習得することを目的とし、提携先の株式会社アイピーシーにて実務研修を行う

■到達目標

実務研修を通して接客技術を身につける

■成績評価の方法等

出席点、レポート、指導員評価点

■授業計画

◆実務経験者による授業の有無：有

企業連携であるわんわん動物園やペット美容室で実務研修の指導を受けます。

回数	授　業　内　容
1～10	インターンシップの必要性、業務内容の把握、あいさつの徹底
11～20	積極的にお客様に声をかける
21～30	報告・連絡・相談の徹底を図る スキルアップを図る

飼育管理実習Ⅰ

ドッグトレーナー科	1年次	通年	90時間	必修	専門科目
			3単位	実習	職業実践科目

■授業の概要

多種・多頭数の生体の飼育管理能力と専門的技術の基礎力を増強する

■到達目標

多種・多頭の生体の管理方法を身につける

■成績評価の方法等

出席点、レポート、指導員評価点

■授業計画

◆実務経験者による授業の有無：有

企業連携であるわんわん動物園から指導を受け、ペット関連業の実務経験者が主に犬に対する適正飼養と衛生管理等を指導します。

回数	授　業　内　容
1～90	【ステップ1】基本的な犬の扱い方や飼育方法を学ぶ 【ステップ2】ケア技術の強化、消毒等の施設美化のスキル向上 当番制で実施するため、報連相のスキルアップ 【ステップ3】各自の苦手克服を目的に、ＰＤＣＡを実践する

動物飼育実習Ⅰ

ドッグトレーナー科	1年次	前期	45時間	必修	専門科目
			1単位	実習	職業実践科目

■授業の概要

展示動物の管理について、お客様の視線を意識した日常ケア等を通し基礎力を養う

■到達目標

展示動物の管理方法の基礎力を身につける

■成績評価の方法等

出席点、レポート、その他評価(あいさつ、生体の扱い、社会人マナー等)

■授業計画

◆実務経験者による授業の有無：有

企業連携であるわんわん動物園から指導を受け、プロトリマー、ドッグトレーナー、愛玩動物看護師、ドッグブリーダー、それぞれの経験を持たれる講師陣が担当し、実務レベルの管理能力を指導します。

回数	授　業　内　容
1～45	基本的な犬の扱い方と健康管理を学ぶ

動物飼育実習Ⅱ

ドッグトレーナー科	1年次	前期	90時間 3単位	必修 実習	専門科目 職業実践科目

■授業の概要

日常ケア、体重コントロール、備品管理に対し、実務レベルでの管理能力の育成を目指す

■到達目標

担当犬に対しての日常ケア、備品管理等の管理能力を身につける

■成績評価の方法等

出席点、レポート、その他評価(あいさつ、生体の扱い、社会人マナー等)

■授業計画

◆実務経験者による授業の有無：有

企業連携であるわんわん動物園から指導を受け、プロトリマー、ドッグトレーナー、愛玩動物看護師、ドッグブリーダー、それぞれの経験を持たれる講師陣が担当し、実務レベルの管理能力を指導します。

回数	授　業　内　容
1～90	担当犬に対しての飼育記録のとり方 バイタルチェック、グルーミング、体重管理などの継続的な実践

動物飼育実習Ⅲ

ドッグトレーナー科	1年次	後期	90時間	必修	専門科目
			3単位	実習	職業実践科目

■授業の概要

日常ケア、体重コントロール、備品管理に対し、実務レベルでの管理能力の育成を目指す

■到達目標

担当犬に対しての日常ケア、備品管理等の管理能力を身につける

■成績評価の方法等

出席点、レポート、その他評価(あいさつ、生体の扱い、社会人マナー等)

■授業計画

◆実務経験者による授業の有無：有

企業連携であるわんわん動物園から指導を受け、プロトリマー、ドッグトレーナー、愛玩動物看護師、ドッグブリーダー、それぞれの経験を持たれる講師陣が担当し、実務レベルの管理能力を指導します。

回数	授　業　内　容
1～90	担当犬に対しての飼育記録のとり方 バイタルチェック、グルーミング、体重管理などの継続的な実践

ペット一般教養Ⅱ

ドッグトレーナー科	2年次	通年	30時間 2単位	必修 講義	共通科目 教養的科目

■授業の概要

就職セミナー、社会人準備、経営組織等についての概説

■到達目標

就職活動の基本を理解し、適切な準備と活動ができる

社会人に求められるコミュニケーションはどのようなものか理解し、卒業後の会社生活に活かすことができる

■成績評価の方法等

出席点、課題評価、授業などでの取り組み姿勢

■授業計画（回数は月間時間割に準ずる）

◆実務経験者による授業の有無：有

ペット関連業の実務経験者であり、経営者としての視点からペット業界の職業倫理や業界人としての心構えなどを指導します。

※予定は変更されることがあります。

回数	授　業　内　容
1～8	就職活動セミナー 企業調査などの事前準備、活動する際のマナー、面接対策など
9～12	卒業研究について 研究の進め方、卒業レポートの書き方など
13～26	ペットビジネス 仕事で使う日本語、ビジネス用語、組織学など
27～30	社会人マナー 新入社員の心構え、社内マナーなど

特別活動Ⅱ

ドッグトレーナー科	2年次	通年	60時間	必修	共通科目
			2単位	実習	教養的科目

■授業の概要

主な学校行事であるスクールフェスティバル、ゼミ発表会、校外イベント活動等の企画運営。また、グループ活動及び実行委員によるリーダーシップの育成を目的としている。

■到達目標

物事に対する事前確認の必要性や計画性を身につけ、コミュニケーション力の向上を図る。

ドッグトレーニング大会などの入賞を目指し、団結力とチームワークを養う。

■成績評価の方法等

出席点、授業などでの取り組み姿勢

■授業計画

◆実務経験者による授業の有無：無

※予定は変更されることがあります。

回数	授　業　内　容
1～5	レクリエーションまたは健康診断
6～10	防災訓練
11～40	スクールフェスティバル 実行委員をリーダーに学生企画、出店の準備から本番まで行う （IPC番付出場者の練習会、本戦）
41～50	ゼミ発表 校内予選を行い、選抜された班はIPCグループ姉妹校との決戦に挑む
51～60	イベントインターンシップ（わんにゃんドーム） 出展企業のブースにてインターンシップを行う（全国ドッグトレーニング大会出場）

ゼミナール

ドッグトレーナー科	2年次	通年	30時間	必修	共通科目
			2単位	演習	専門基礎科目

■授業の概要

課題研究と連動して動物の生体を研究する。プレゼン技術向上。

■到達目標

プレゼンテーションスキルのレベルアップ及びコミュニケーション力の向上

卒業研究を通じてプレゼンテーション力を身につけ、表現力向上を図る。

■成績評価の方法等

出席点、授業などでの取り組み姿勢

■授業計画

◆実務経験者による授業の有無：有

しつけ教室でドッグトレーナーとしての実務経験がある講師が担当し、犬の行動学分野について研究します。

回数	授　業　内　容
1～30	テーマ決め、計画書の作成 データ収集のため、実験を行う プレゼンテーション作成

課題研究

ドッグトレーナー科	2年次	通年	45時間	必修	共通科目
			3単位	演習	専門基礎科目

■授業の概要

卒業研究及び卒業論文の作成

■到達目標

課題発見力と問題解決力を身につける。課題発見から解決まで、主体的に行い、研究内容を説明できる。

■成績評価の方法等

出席点、卒業レポート、授業などでの取り組み姿勢

■授業計画

◆実務経験者による授業の有無：有

しつけ教室でドッグトレーナーとしての実務経験がある講師が担当し、犬の行動学分野について研究します。

回数	授　業　内　容
1～45	ゼミナールにてデータ収集を行った資料を使用し、 ディスカッションを繰り返す。実験を行う。 卒業レポートを作成する

高等訓練学

ドッグトレーナー科	2年次	通年	15時間	必修	専門科目
			1単位	講義	専門科目

■授業の概要

実習で行っているトレーニング方法を理論的に学ぶ

臭気項目、介助項目、ドッグダンス、ディスクドッグなどの訓練方法を学ぶ

■到達目標

犬の学習理論と能力値などを用い、訓練内容を説明できる。

ＡＡＡ活動の社会的意義を理解する。

■成績評価の方法等

出席点、資格試験、授業などでの取り組み姿勢

■授業計画（回数は、月間時間割に準ずる）

◆実務経験者による授業の有無：有

しつけ教室でドッグトレーナーとしての実務経験がある講師が担当します。

※予定は変更されることがあります。

回数	授　業　内　容
1～2	・ガイダンス・ドッグトレーニングの組立て方
3～4	・補助犬法（訓練基準）・介助動作の6段階 ・臭気作業～災害救助犬や警察犬など・嗅覚作業の初期訓練
5～6	・スポーツ・ドッグ
7～8	期末のまとめおよび期末試験（模擬試験）
9～10	人とペットの関係学、ＡＡＡ活動について
11～14	FT企画）ドッグトレーニングの工夫とアドバイス
15	期末のまとめおよび期末試験

専科選択科目

ドッグトレーナー科	2年次	通年	45時間	必修	専門科目
			3単位	講義	専門科目

■授業の概要

犬の問題行動に対する知識を深め、顧客に対するカウンセリング、アドバイス等の話術を学ぶ。また、犬の飼育に必要な基礎知識を学ぶ。社会人マナーのスキルアップ。

■到達目標

犬の問題行動に対し、行動カウンセリングができる。
修正訓練の方法をわかりやすく、簡潔に説明できる。

■成績評価の方法等

出席点、資格試験、授業などでの取り組み姿勢

■授業計画（回数は、月間時間割に準ずる）

◆実務経験者による授業の有無：有

しつけ教室でドッグトレーナーとしての実務経験がある講師が担当します。

※予定は変更されることがあります。

回数	授　業　内　容
1～2	ガイダンス
3～4	カウンセリングとコンサルテーション
5～6	カウンセリングの基本
7～8	パピートレーニング
9～12	犬の問題行動①排泄について
13～16	犬の問題行動②吠え声について
17～18	犬の学習理論と行動修正法
19～20	ペット防災を考える、ハウス・トレーニング
21～28	試験対策および試験
29～30	ガイダンス②
31～34	犬の問題行動③攻撃性
35～38	犬の問題行動④恐れ、不安
39～45	発表会についての話合い、構成テクニックなどを学ぶ

飼育管理実習Ⅱ

ドッグトレーナー科	2年次	通年	300時間	必修	専門科目
			10単位	講義	専門科目

■授業の概要

ドッグトレーナー科の飼養犬の飼育管理および飼養施設の衛生管理の実践

確認・連絡・報告・相談など実務レベルで身につける

■到達目標

健康管理を中心に「ケア」の目的を理解し、その犬にとって適切な管理方法、継続方法を考慮し、実行できる

適切な管理方法の問題を発見し、解決方法を説明することができる

■成績評価の方法等

出席点、授業などでの取り組み姿勢

■授業計画

◆実務経験者による授業の有無：有

しつけ教室でドッグトレーナーとしての実務経験がある講師が担当します。

回数	授　業　内　容
1～300	バイタルチェック、グルーミング、体重管理などの継続的な飼育管理の実践 ケア技術の強化、施設美化のスキル向上、四季のリスク管理 確連報の徹底、ＰＤＣＡの実践

訓練実習Ⅲ-1 オビディエンス

ドッグトレーナー科	2 年次	通年	120 時間	必修	専門科目
			4 単位	実習	職業実践科目

■授業の概要

連携企業から提供された訓練犬に対し、服従６項目を家庭犬のレベルから競技会レベルまで実践する。実習内容の性質から概ね 70%の時間を継続訓練とする。

■到達目標

服従 6 項目（停座・伏臥・立止・静止各項目・招呼・脚側歩行）の訓練ができる
犬の問題行動に対し、効果的な服従項目を強化することができる。その訓練方法の基本と応用を理解し、説明することができる

■成績評価の方法等

出席点、資格試験、授業などでの取り組み姿勢

■授業計画（回数は、月間時間割に準ずる）

◆実務経験者による授業の有無：有

しつけ教室でドッグトレーナーとしての実務経験がある講師が担当します。

※予定は変更されることがあります。

回数	授　業　内　容
1～60	服従訓練（初級～中等） ・紐付服従項目・基本 6 項目の遠隔操作まで ・トレーナーに必要な基本動作と訓練の組立て方
61～90	応用服従訓練（中等～高等） ・遠隔操作・紐無歩行・常歩中、速歩中、招呼中など ・苦手項目を訓練する際の工夫と組立て方 ・犬のレベルアップを図る際のアプローチ方法
91～120	試験対策 ・コース説明・試験対策のポイント・模擬試験 ・試験など決められたコース、ルールについての攻略法、練習時のポイント

訓練実習Ⅲ-2 パフォーマンス

ドッグトレーナー科	2 年次	通年	90 時間	必修	専門科目
			3 単位	実習	職業実践科目

■授業の概要

担当する訓練犬に対し、まわれ、股くぐり歩行などの一芸項目を実際に教えていき、ドッグダンスの構成からパフォーマンス・ショーまでを実践する。実習内容の性質から概ね70%の時間を継続訓練とする。

■到達目標

マワレなどのパフォーマンス項目の訓練ができ、ドッグダンスを実行できる
犬の問題行動に対し、効果的なパフォーマンス項目を選択し、その訓練方法の基本と応用を説明することができる

■成績評価の方法等

出席点、資格試験、授業などでの取り組み姿勢

■授業計画（回数は、月間時間割に準ずる）

◆実務経験者による授業の有無：有

しつけ教室でドッグトレーナーとしての実務経験がある講師が担当します。

※予定は変更されることがあります。

回数	授　業　内　容
1～15	パフォーマンス項目の基本的な教え方 必修項目：マワレ、エイト、ハードル、ロール、スタンド
16～30	必修項目および学生自身が選択した項目の継続訓練
31～90	パフォーマンス・ショーの企画・構成、練習 （年 2 回開催）

専科選択実習

ドッグトレーナー科	2年次	通年	90時間	必修	専門科目
			3単位	実習	職業実践科目

■授業の概要

しつけ教室（実習）、ふれあい活動（実地）、発表会などを担当する訓練犬とともに実地訓練する。また、それらに必要な項目の継続訓練を行う。

■到達目標

しつけ教室の企画構成および運営補助ができる

犬のしつけ方について、学習理論を中心とした訓練方法を理解し、説明できる

グループ活動により、コミュニケーション力を養う

■成績評価の方法等

出席点、資格試験、授業などでの取り組み姿勢

■授業計画（回数は、月間時間割に準ずる）

◆実務経験者による授業の有無：有

しつけ教室でドッグトレーナーとしての実務経験がある講師が担当します。

※予定は変更されることがあります。

回数	授　業　内　容
1～30	しつけ教室概論および継続訓練実習
31～34	ＡＡＡ活動（準備、実践）
35～65	継続訓練実習
66～85	年2回実施する成果発表会の練習、リハーサルおよび本番
86～90	試験

能力開発実習

ドッグトレーナー科	2年次	通年	60時間 2単位	必修 実践	専門科目 職業実践科目

■授業の概要

当校が行っている使役訓練犬（チーム犬）に対し、捜索項目（災害救助犬)、盲導・聴導・介助項目より学生自身が選択し、チームで継続訓練する

■到達目標

高等訓練技術を習得する

チームワークの重要性を理解し、主体的に行動できる

■成績評価の方法等

出席点、授業などでの取り組み姿勢

■授業計画（回数は、月間時間割に準ずる）

◆実務経験者による授業の有無：有

しつけ教室でドッグトレーナーとしての実務経験がある講師が担当します。

※予定は変更されることがあります。

回数	授　業　内　容
1～4	ガイダンス ・チーム犬とは・実習の行い方など
5～8	トレーニングスケジュールを立てる ・年次課題の発表・チーム目標の決定・選択した使役犬の社会的役割などを調査する
9～50	チームごとで継続訓練実施
51～58	成果発表会 ・年2回行う成果発表会の目的と大まかな流れ ・発表会の企画構成、チーム内練習、全体リハーサル
59～60	1年生への訓練説明、引継ぎ